

区分・種別	県指定史跡		
名称	いもじぞう 甘藷地蔵		
所在地	今治市上浦町瀬戸		
所有者	向雲寺	管理団体	
指定年月日	昭和23年10月28日		
解説	<p>向雲寺の境内には、甘藷地蔵を安置する小さなお堂と拝殿がある。</p> <p>甘藷地蔵は江戸時代初期、伊予国に初めて甘藷を持ち帰り栽培を教えたという下見吉十郎<small>あさみきちゅうろう</small>をまつるもので、高さ50cmほどの石地蔵である。地蔵の台石には「下見吉十郎」、「宝暦五乙亥年八月朔日」の文字が刻されている。</p> <p>下見吉十郎は大三島瀬戸村の名家の出であったが、4子の夭折<small>ようせつ</small>に無常を感じて六部行者<small>ろくぶぎょうじゃ</small>になり諸国を巡拝した。正徳元（1711）年、たまたま薩摩国日置郡伊集院村<small>ひおきぐんいじゅういんむら</small>に滞在した吉十郎は、甘藷が飢饉<small>ききん</small>に耐える有用な食物であることを知り、秘かに郷里へ持ち帰って村人に栽培法を教え、凶荒に備えさせたという。享保の飢饉、天保の飢饉にも島々では餓死者は出なかったと云われている。</p> <p>吉十郎は宝暦5（1755）年8月、82歳で没し向雲寺に葬られた。現在も、彼の功績をたたえて甘藷地蔵を祀り、毎年供養祭を営んでいる。</p>		

